

# 世界の教育と 岡崎の教育



愛知教育大学准教授

久野 弘 幸 氏

教育随想



平成24年6月1日

## 6月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想 .....	1
愛知教育大学准教授 久野 弘幸氏	
この人に聞く .....	2
元日本漫画家協会中部支部長 いしはら いずみ氏	
羅針盤 .....	2
北中学校長 稲垣 幸一	
ふれあい .....	3
矢作北小学校 西田 貴子	
特集 .....	4
「石都岡崎」を見つめ直す	
お知らせ .....	6
フォト・ヒストリー .....	8
荒川同楽句碑除幕式 (昭和49年)	
この本を .....	8

昨年から今年にかけて、海外の学校や研究機関等を訪ね、授業の参観、研究授業のアドバイス、授業研究に関する講演や研修を行う機会が格段に増えました。招かれて訪問する場合もあれば、こちらから手弁当で出かけ、話をさせていただくこともあります。皆さんの中には、「日本の授業研究が世界から注目されている」という話を耳にされた方も多いと思いますが、この数年、私はこの潮流の中で仕事をする人間の一人となつていきます。

昨年冬からこの春の間だけでも、東京での国際授業研究会 (WALS) の主催、カザフスタンにおける講演と現職研修セミナー、マレーシアとインドネシアでの授業研究と研究授業へのアドバイス、マレーシアとイラン研究者の来日を受け入れたの上地小学校での校内授業研参観などを

行ってきました。これらの講演・講話、研修会などで私が主に紹介するのは、間違いなく、私がこの十年あまりの間に学校現場からお預かりした教育実践の具体的なありようです。私の中には、岡崎の教育の血が流れています。矢作西小学校に入学し、広幡小学校を卒業し、城北中学校を母校とする私は、まぎれもなく岡崎っ子です。現在、生活科・総合的学習を中心に、授業研究の質的充実や、子供の育ちと先生方のさらなる成長と努力を引き出すことを願い、触媒としての役割をしたいと、日々学校現場を回っています。仕事をする中で心掛けてきたのは、私自身が子供の頃から接してきた岡崎の教育の核心的な思想や実践を、高い水準でどのように引き出すことができるかという点です。



意味と意義を伴って、世界に発信していく価値を持った地域の教育風土であり、学校の風景でもあります。岡崎の教育は、そのままつづく、現在の世界の教育の最前線につながっていると私は考えています。

(くの ひろゆき)

# この人に聞く



## ほめていただいたおかげで

元日本漫画家協会中部支部長  
いしはら いずみ 氏

地元企業PR誌のイラストなどで、岡崎市民なら、一度は石原さんの絵を目にしたことがあるだろう。

「小学校四年生のときでした。グループで魚のことを調べたのです。魚の図鑑を見て、その中の珍しい魚を描き、発表しました。この絵を、担任の先生に、すごくほめていただいたのです。それが絵を描き始めたきっかけでした。」

六十歳を過ぎた今でも、当時のことを鮮明に覚えており、目を輝かせて話をされる。

「マツカサウオというパイナップ



【名人芸】

ルミみたいな形の魚でした。描くのが面倒だったのです。この年まで生きてきて、ほめられた中で、いちばんうれしかったことです。」

小学校四年生で絵をほめられてから、絵に強い関心をもつようになる。「中学生のとき、教室に教育雑誌がありました。その雑誌に『コマ漫画のコーナー』があり、応募したくなりました。漫画を投稿したのは、この時が初めてで、私の漫画が載ったのです。うれしかったですね。」

その頃から漫画に夢中になり、手塚治虫さんの絵のアイデアやストーリーのすばらしさに驚嘆する。中学生時代は、ノートの端などに、鉄腕アトムをまねて描いていたそうである。その後、十九歳で市役所に就職した。

「市役所に勤めていた頃、中学生の時に漫画を投稿した教育雑誌の、編集者の元校長先生に声を掛けられました。その方が出版される本のイラストを描かせていただいたんです。とても光栄に感じました。」

しばらく投稿することはなかったが、再び投稿し始めたのは、二十一才のとき。手塚治虫さんが創刊した『C



OM』という月刊誌だった。この投稿で多くの作品が入選し、漫画家協会に入会を許される。葵博に手塚治虫さんが来場したときには、付き人として指名されるといふ幸運にも恵まれた。

「市役所の仕事をしていたときは、絵は夜中に描いていました。いちばん多いときで七つ連載を抱えていました。仕事から帰ってきたら一回寝て、一時くらいに起きて、そこから描きます。今思うと、よくやっていたなあと思いますよ。」

と当時の激務を振り返る。「これからも心みたくいなるものをテーマに描いていこうと思ってるんです。」石原さんにとって漫画とは、自分を表現する最高の手段であるという。「もともと、学校の先生にほめていただいたのがスタートでした。自分から先生に話し掛けることができなかった生徒ですから、そんな私に話し掛け、しかもほめてもらえるなんて。」

当時を振り返りながら話す石原さんの前には、新たに始まる連載に向け、いくつかの完成した原稿が積み重ねられていた。



【大凶】

氏名 石原 泉  
生年月日 昭和十九年八月十三日  
住 所 岡崎市保母町

# 羅針盤



## 防災教育のススメ

北中 校長

稲垣 幸一

「今の知識では、まだ甘い。もっと現実、真実を知る必要がある。同じ中学生である彼らの明るさ、強さはどこから生まれているのだろうか。」

これは、東日本大震災の被災地、石巻市立湊中学校を訪問した本校生徒の感想である。

筆舌に尽くしがたい苦難に遭遇しながらも、冷静さと秩序を保ち、懸命に耐え抜こうとしている中学生や被災者の姿に、同行した私は、言葉が失った。しかし、未曾有〃という言葉で表現される実態の恐ろしさに打ちのめされる思いの中で、一条の確かな光も見ることができた。それは、現地で全国のボランティアと一緒に学習や活動に打ち込む被災地の児童・生徒の様子である。

これまで、私たち教師は、子供や若者について語るとき、「学力の低下」



## 家庭科+仲間Ⅱ A男の自信

矢作北小

西田 貴子

「先生、家庭科の授業はいつから始まりますか。」

五年生になつてすぐの頃、A男が話し掛けてきた。

A男は思ったことを上手に表現できない。授業中は、話がまとまらず、発言の途中であきらめて座ってしまふ。友達と話していても、気付かないうちに命令口調になつてしまい、友達作りがうまくいかない。休み時間になると、

「先生、ぼく、昨日ばあちゃんと一緒に夕飯を作りました。先生も夕飯を作りましたか。」

「ううん、作らなかつたよ。A男君は何を作つたの。」

「えっと、みそ汁で、じいちゃんが育てた野菜を切つて……。」

こんなふうな、友達にも進んで話せたら、A男も毎日が楽しいだろう。意欲をもっている家庭科の授業の中

でA男を生かすことができないだろうかと考えた。

六月、ふきんを縫うことにした。初めに私が作った見本のふきんを見せた。「模様は色糸を使って縫いました。長く使えるように縫い目の大きさをそろえて、最後まで丁寧仕上げましょう。」

見本にじつと見入るA男がいた。使う糸の色や模様、縫い方など、自由に取り組めるようにしたふきん作りは、予想通り、A男の心を捉えたようだった。

A男は自分で考えたキャラクターの絵を描き、なみ縫いでどんどん縫い進めた。この姿を見た同じグループのB子から、

「A男君、縫うの速いし、上手だね。」とほめられると、A男は、「どうも。」

と軽口で返し、照れ笑いをする。自分が認められたことに喜びを感じたのか、グループのみんなに自分から進んで絵の説明をする姿が見られた。しかし、A男のふきんは、玉どめが緩くてほどけたり、縫い方が雑になつたりしている部分がある。

「A男君、なんで玉どめが緩くなるのかな。友達に教えてもらつたら解決できそうだね。」

「はい、でもいいです。」

「いいですつてあきらめたら、せっかく縫つたふきんの模様が、使っているうちにとれちゃうよ。どうすればいいか、グループの子に聞けばきつと

教えてくれるよ。」

私が教えて直させることもできたが、友達から学べるようにと、声掛けだけにどめ、見守ることにした。このやりとりを聞いていた周りの友達も、A男が声を掛けてくるのを待っていてくれた。

「えっと……、ここは、どうすれば緩まなくなるの。」

勇気を出して友達に聞くことができたA男を見て、私は、思わず拍手をしてしまった。

A男のふきんは、友達からのアドバイスを受けて、縫い目の細かい丈夫な作品に仕上がった。市の家庭科作品展にも出品された。大好きな家庭科で賞状をもらったA男は、本当にうれしそうだった。クラスの友達からは、「家庭科だけはA男にかなわないねえ」と言われるようになった。A男にとって何よりもうれしいほめ言葉である。

それ以来、友達と一緒に過ごす時間が増え、A男は前ほど私を必要としなくなつた。A男に自信をもたせてくれたクラスの仲間と家庭科に感謝である。



「社会性の欠如」「主体性の乏しさ」など、負のイメージを先行させてきた。また、奉仕の心・ボランティア活動についても、その指導方法に手詰まり感を抱いて憂いたりもした。

こうした懸念を払拭してくれたのが、困窮の事態に直面した東北の支援活動に取り組む、目の前の子供たちの変容であった。これまで積み重ねてきた指導、支援に自信をもつことができた。しかし、一方で、彼らの潜在能力に気付くことができなかったことは否めない。安定した日常生活の中で、「教師はひたすら教え込むことに注力し、子供は教えられたことを素直に発揮する」ことに満足し、児童・生徒一人一人の内にもつ能力を引き出し、育むことを忘れかけていたように思う。

今回の震災で、日本社会は多くのものを失つたが、学校現場では、平時では気が付くことのない、見えにくい課題が浮き彫りになったのも事実である。その中で、「防災教育」は、子供のかげがえのない命を守り、安心・安全な学校体制を構築するばかりでなく、それによって、各教科・道徳・特別活動における指導効果を一層高め、「教育の原点」に立ち戻ることができる。被災地以上の取組みを期待したい。



# 『石都岡崎』を見つめ直す

▲ 石職人の技によってできあがる石製品

岡崎の伝統産業の一つに、石工業がある。岡崎は、質の高いみかげ石の産出地としても有名で、日本の三大産地の一つでもある。全国から「石都」と呼ばれ、小中学校に置かれている二宮金次郎の石像が初めて作られたのも、岡崎である。

岡崎と石とのかかわりの歴史は古く、四百年以上も前、ときの岡崎城主田中吉政が城下町の整備を行ったことに端を発する。石垣や堀を作るのに、大阪方面から石職人を呼び、随念寺（梅園町）周辺に住まわせた。その後、徳川家康が全国を統一したことで、岡崎の石製品は全国に広まった。

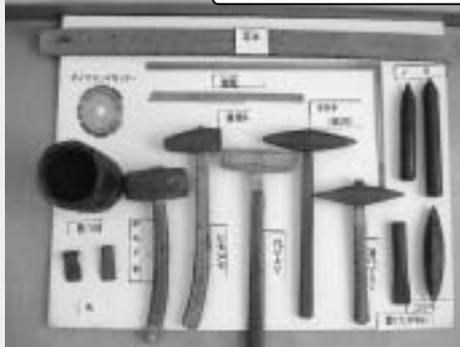
鉄道が開通し、交通網が整備されると、岡崎の石工業はさらに成長を遂げ、戦前の最盛期には石屋は三五〇軒を数えた。その後、騒音・粉じん等の問題から、昭和三十九年に上佐々木町に、昭和四十八年に稲熊町に石工団地ができた。

しかし、時代が平成に入り、安い中国産の石製品が大量に輸入されるようになった。さらに、石職人の高齢化、後継者不足という問題も出てきた。そして、岡崎の石工業は、転換期を迎えることになった。

現在、岡崎の石製品のよさをもっと広く知ってもらおうと、催しを開いたり、社会見学を積極的に受け入れたりしている。

岡崎の石工業には、本物を一つ一つ丁寧に作り上げる伝統に培われた技がある。全国的にも注目され、修業に来る若い人たちもいる。岡崎の石職人は妥協を許さず、伝統を継承しながら技術に磨きをかけ、さらに大きく羽ばたこうとしている。

## 伝統のよさを受け継ぎながらも、新しい世界を開拓



▲ 今でも使用している伝統的な道具



▲ 昔ながらの石製品



▲ 若い石職人の作品

〈身の回りに石がいっぱい〉



二宮金次郎像(梅園小)



大樹寺前の石畳(鴨田町)



八丁味噌蔵モニュメント(中岡崎町)



田中吉政像(籠田町)



JR岡崎駅西モニュメント(羽根町)



岡崎空襲の慰霊碑(康生町)



岡崎宿伝馬歴史プロムナードの五万石船(伝馬町)

〈社会科の授業として〉



▲ 石職人の仕事を観察(井田小) ▲ 石割りの体験(竜美丘小)

「職人になって36年になるけれどまだ修行中だ」と言っていたから驚きました。一日中、石をけずったり磨いたりしているのは大変だと思います。岡崎の石の素晴らしさを伝えていくことが大切だと感じました。

(竜美丘小 4年児童Aの記録)

上佐々木町の石工団地には、昨年度十校ほどの小学校が社会見学に訪れた。学習内容は学校の要望に応じて柔軟に対応していただけた。

団吉くんまつり

4月下旬 石工団地にて開催

※団吉くんとは石工団地の石のキャラクターのこと



▲ 実演に思わず釘づけ



▲ 転がる石で「的あて」

ストーンフェア

10月下旬 菅生川原にて開催

※ストーンフェアは、今年で21回目



▲ 石製品に足を止める来場者



▲ 葵武将隊も応援

〈石を身近に感じてもらうための催し〉

石都岡崎の厳しい現状

● 後継者不足と売上げの減少

年度	従事者数(人)	生産額(万円)
1979	351	229,000
1988	249	210,100
1997	240	136,700
2006	200	90,000
2011	149	64,000

(データは上佐々木町石工団地のもの)

30年前と比べて、従事者数は半分以下、生産額は3分の1以下になっている。

★後継者不足★

生産額が減っているのに、石屋として生活していくのは大変です。職人と言われるまでには、最低でも10年はかかります。そのため、若い人がなかなか跡を継ごうとしません。

今、岡崎市全体では30人を超える伝統工芸士がいますが、早く職人の技術を継承していかないと、高齢化が進み、やがては職人がなくなってしまいます。「石都岡崎」を守るためにも、後継者を育てることは、大きな課題です。

(石工団地 理事長さんの話)

★他国から安い製品の輸入★

平成の時代になって、中国から石製品が輸入されるようになりました。中国の製品というと、粗悪な感じを受けますが、近年、中国産の石製品もずいぶんと質がよくなりました。

しかし、岡崎の石製品はやはり職人の技術が違います。職人の心のこもったもの、石のぬくもりを感じられるものを欲しいと言ってくれるお客さんもいます。そのような人に、本当によいものを伝えていきたいです。

(石工団地 事務局の方の話)



● 芸術鑑賞会

今年度も芸術鑑賞会を行う。

芸術・文化活動の優れた作品等の鑑賞や体験活動を通して、子供たちの感性を育み、未来を担う子供たちの健やかな成長を図る。参加対象は、小学校六年生全員と教員である。

劇団「四季」の「こころの劇場」として、岡崎市で招待公演される。今年度の作品は、『ガンバの大冒険』を予定している。

この芸術鑑賞が、子供たちに大きな感動を与えてくれることを期待している。

- 日時 八月二日(木)
- ・午前の部 十時三十分～
- ・午後の部 十四時～
- 八月三日(金)
- ・午後の部 十四時～
- 場所 岡崎市民会館

● 表彰

○演題 『ガンバの大冒険』  
○参加講演は学校ごとに指定する予定

◆ 第24回管楽器個人・重奏コンテスト愛知県大会

打楽器八重奏  
優秀賞 南中学校

◆ 第24回管楽器個人・重奏コンテスト東海大会

クラリネット八重奏  
優良賞 竜海中学校  
打楽器八重奏  
優良賞 南中学校

◆ 第19回愛知県ヴォーカル・アンサンブルコンテスト  
中学校部門

銀賞 竜海中学校A  
銅賞 竜海中学校B  
矢作北中学校

● 小中学校のようす

平成二十四年度岡崎市内の小中学校の概要がまとまった。五月一日現在の学校や学級数、児童生徒と教職員の数を表に示した。

● 学校・学級の規模（市内平均）

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	468人	585人
1校当たり学級数	17学級	18学級
1学級当たり児童・生徒数	27人	32人

一校当たりの児童・生徒数は、小学校は五名減で、中学校は二名増。一校当たりの学級数は中学校が一学級減。一学級当たりの児童・生徒数は、小学校は一名減、中学校は一名増。

岡崎市内の児童・生徒数の合計は、昨年よりも二〇〇名近く減少した。教職員数は三名増となった。

教員補助者は百七十六名で、うち三十一名は図書館支援員。

図書館支援員は十一名増で、教員補助者全体は昨年と同数。小学校英語支援員十八名、AL T十九名は昨年と同数である。

● 学年別児童・生徒数（人）

学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,808	1,842	1,826	1,962	1,890	1,932	1,918	1,957	1,882
女	1,729	1,771	1,723	1,790	1,851	1,859	1,764	1,816	1,784
計	3,537	3,613	3,549	3,752	3,741	3,791	3,682	3,773	3,666

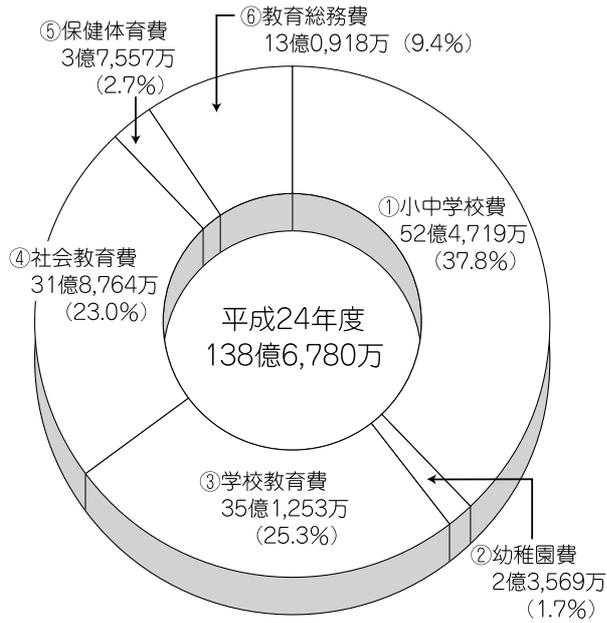
● 児童・生徒・教職員数

区分	学校数(校)	学級(特別支援)(学級)	児童・生徒(人)			校長・教頭・教諭(人)			栄養教諭・職員(人)	事務職員(人)	養護教諭(人)
			男	女	計	男	女	計			
小学校	47	804 < 83 >	11,260	10,723	21,983	457	638	1,095	10	50	50
中学校	19	350 < 38 >	5,757	5,364	11,121	390	258	648	4	26	24
合計	66	1,154 < 121 >	17,017	16,087	33,104	847	896	1,743	14	76	74

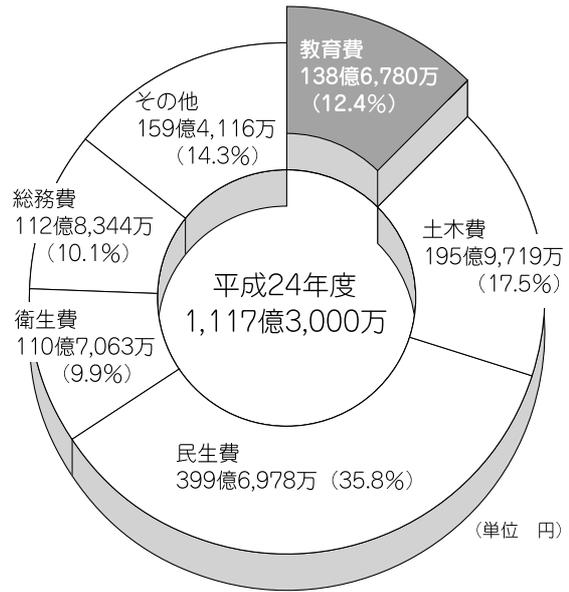
# 平成24年度 岡崎市の教育予算

誇りと安心をもてる すみよさを 次の10年につないでいく予算

## 〈教育費の内訳〉



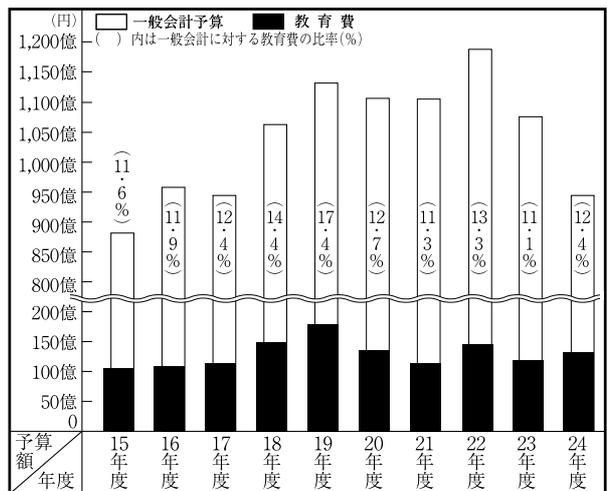
## 〈一般会計予算〉



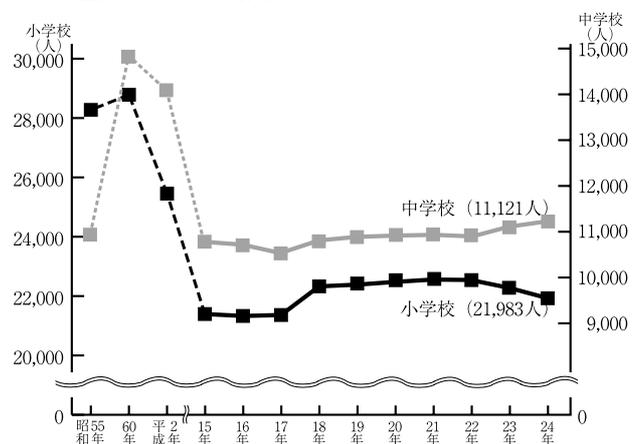
### ◆平成24年度のあらまし◆

小中学校費	校舎・屋体・プール武道場・グラウンド新築(翔南中): 継続 校舎改修・グラウンド整備(豊富小): 通次繰越 便所改修(矢作北小・矢作南小・城南小・竜海中): 繰越 プール改築(城北中): 繰越 テレビ共聴システム改修(福岡小・竜谷小・山中小・岩津小・矢作東小・矢作北小・六ツ美中部小・六ツ美南部小・秦梨小・常磐小・六ツ美西部小・夏山小・宮崎小・形埜小・美川中・東海中・南中・城北中・矢作中・六ツ美中・竜南中・北中・福岡中): 繰越 校内LAN整備(福岡小・竜谷小・山中小・岩津小・矢作東小・矢作北小・六ツ美中部小・六ツ美南部小・美川中・東海中): 繰越 図書室空調設備(矢作東小・緑丘小・福岡小・北野小・岡崎小・男川小・細川小・小豆坂小・岩津小・城南小) 保健室空調設備(河合中・新香山中・矢作中) 屋内運動場天井改修(福岡小・常磐東小・恵田小・矢作北小・上地小・小豆坂小・北野小・夏山小・豊富小・下山小): 繰越 天井扇整備(岡崎小・福岡小・竜谷小・藤川小・山中小・本宿小・恵田小・奥殿小・細川小・岩津小・大樹寺小・大門小・矢作東小・矢作北小・矢作西小・矢作南小・六ツ美中部小・六ツ美北部小・六ツ美南部小・城南小・上地小・小豆坂小・北野小・夏山小・宮崎小・形埜小・下山小・福岡中・東海中・岩津中・矢作中・六ツ美中・矢作北中・新香山中・六ツ美北中・額田中) 壁扇設置(根石小・男川小・美合小・緑丘小・羽根小・六名小・三島小・竜美丘小・連尺小・広幡小・井田小・愛宕小・福岡小・竜谷小・山中小・本宿小・秦梨小・常磐東小・常磐小・細川小・大樹寺小・大門小・矢作東小・矢作北小・矢作西小・矢作南小・六ツ美中部小・六ツ美北部小・六ツ美南部小・城南小・小豆坂小・甲山中・美川中・南中・竜海中・葵中・城北中・福岡中・東海中・河合中・常磐中・岩津中・六ツ美中・福岡中・新香山中・竜南中・北中) 屋内運動場外部改修(羽根小・岩津小・藤川小・六ツ美北部小・生平小・常磐小) 下水処理切替(藤川小・宮崎小・六ツ美北中)
学校教育費	行事開催事業委託及び指導研修 教育の振興、研究助成 児童・生徒の健康診断・健康維持 小中学校各種スポーツ大会開催 健全育成推進 小学校英語補助者派遣 就学援助(要・標準保護児童生徒、特別支援教育就学奨励) 総合学習センター管理運営 学校給食事業
社会教育費	市民大学事業 社会教育事業 青少年健全育成推進事業 文化財保存管理事業 文化財整備活用事業 図書館、美術館、美術博物館、市民センター管理運営 視聴覚ライブラリー管理運営 少年自然の家管理運営及び施設整備 青少年センター・太陽の城解体事業
教育総務費	奨学資金貸付事業

### ◆一般会計予算と教育費の推移



### ◆児童・生徒数の推移 (数字は毎年5月1日現在)



・カ  
ツ  
ト  
常磐小  
宇野友啓

# 荒川同楽句碑除幕式

(昭和49年)

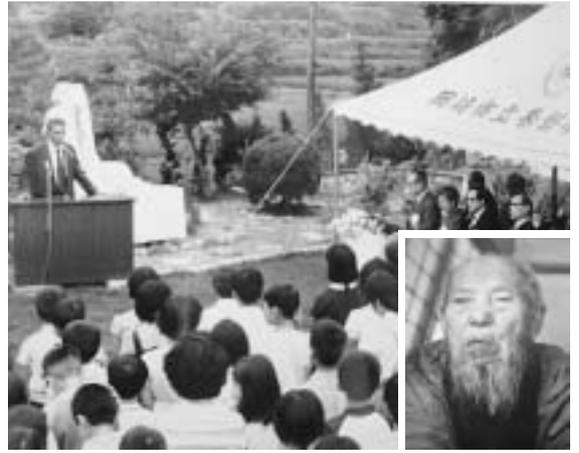
写真提供：秦梨小学校

ものいわで うなづく癖や 入学児  
荒川 同楽

一九七四（昭和四十九）年、秦梨小学校で荒川同楽（本名・鼎）の句碑の除幕式が行われた。同楽は大変苦勞をして勉強し、医者になった。生涯のほとんどを秦梨で送り、校医として五十年余り務めた。

また、俳人としても、三河はもとより県外までその名をはせた。秦梨学区の人たちを集めて「稻香吟社」というグループを作り、俳句文化を地域に広めた。勉学に励み人のためになることをしてほしいという同楽の願いから、同楽の死後、遺族によって毎年、卒業生に辞典が贈られている。

各地域・学校にもこのような句碑が残っている。私たちは、その句碑に込められた思いを忘れてはならない。



職人と言われるようになって四十年。それでも自分の納得のできる作品を求め続ける。匠の技には「完成」という言葉はない。伝統の技術を受け継ぎながらも、石製品は少しずつ姿を変えてきている。石工業だけでなく、岡崎には花火や八丁味噌など多くの伝統産業が存在する。その技を岡崎の子供たちが継承していくことを願っている。

## シ オ ス ア

涼しげな白いシャツ姿が、日に日に増えていく。かつて教室中が一斉に明るくなった六月一日は、移行期間が設定されるようになってから、特別な日ではなくなった。冷暖房が行き渡った生活の中で、「衣替え」という言葉さえ、子供たちには、なじみのないものになりつつある。しかし、単なる体温調節だけでなく、衣服によって季節を感じ、表現する妙。大切にしたい習わしである。

思いがけない一言が、時として子供の生きるエネルギーとなり、その子の一生を方向付けるときもある。私たちが日々行っている声掛けは、大きな影響力とパワーをもっている。卒業して何十年後に、小学生の時にほめられて今の自分がある、と言われると、やはり教師はやりがいのある仕事であると実感する。

アメンボの泳ぐ水面。プールの開きに向けて、掃除をするプールには小さな命が息づく。きれいになってゆくとともに、子供たちは歓声をあげる。水面を気持ちよく泳ぐ自分の姿に思いを巡らしながら。命を育む水が、時には命を奪うことにもなる。命を支える水に感謝しながら、子供の安全を願い、きれいになった、しかしまだ冷たいプールに足先を入れる。

# この本を

- \* あきらめない 働くあなたに贈る真実のメッセージ  
村木 厚子 ￥1,470  
日経BP社
  - \* 発達障害の子どもを理解する  
小西 行郎 ￥756  
集英社新書
  - \* 9割がバイトでも最高の感動が生まれる  
ディズニーのホスピタリティー  
福島文二郎 ￥1,365  
中経出版
  - \* これからのリーダーに知っておいてほしいこと  
中村 邦夫 ￥1,260  
PHP研究所
  - \* 日本一短い手紙「明日」  
丸岡町文化振興事業団 編  
中央経済社 ￥945
- 「明日があるのは、当たり前じゃない。明日があるのは、幸せって意味なんだよ。」  
この文は、山梨県の小学6年生が「未来に生きている私へ」と題して書いた短い手紙。本書は、昨年の大震災後、明日からどう生きるべきか、何をどうすべきかを伝える「明日」という題で募集された手紙文コンクールの入賞作品集である。被災された方や年配の方々に混じって、悲しみを受け止めながらも前向きな小学生の姿に、胸を打たれる。  
恵田小 山本知子